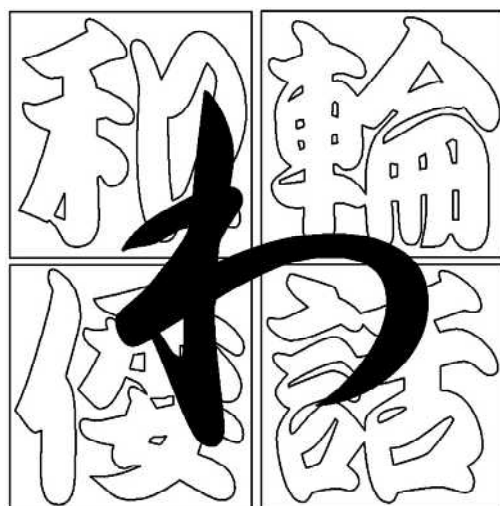


# 金沢区生涯学習“わ”の会

## 会 報 第 13 号

平成 17(2005)年 5 月

ホームページ: <http://wanokai.web.infoseek.co.jp/> メール: [kanazawa\\_wanokai@infoseek.jp](mailto:kanazawa_wanokai@infoseek.jp)



### “わ”の会マークについて

“わ”とは、  
平和・和気あいあいの“和”  
お話・会話・対話の“話”  
古い時代、日本国の呼称であった“倭”  
人間と人間を繋ぐ“輪”  
感動詞の“わっ！”  
を表現する文字で、本会の性格を示す。

制定：2002年5月

## 目 次

就任の挨拶 代表就任にあたって	代表 岡本 茂男 . . . . .	2
退任の挨拶 代表を退任するにあたり	顧問 高橋 好一 . . . . .	3
分科会の1年を振り返って		
古文書を読む会	分科会代表 岡田 満 . . . . .	4
会員の寄稿		
珍味	納富 優 . . . . .	6
「峰の薬師へのみち」を歩く	太田 八百丸 . . . . .	8
鎌倉俳句寺社めぐり〔 〕(その3)	北野 清市 . . . . .	11
分科会からのお知らせ		
2005年9月までの予定	. . . . .	12

# 就任の挨拶

代表就任にあたって

代表 岡本 茂男

会員の皆様にはますますご健勝のことと拝察いたします。この度、金沢区生涯学習“わ”の会代表となりました岡本茂男です。

多くの会員の皆様の思うお気持ちの一つに、「普段見慣れている自分の住む街が歴史的にどんな経過をたどってきたのかな？」ということがあろうかと考えます。地域の歴史に興味を持たれることは自然なことと思います。特に会員の多くの方は俗に言う企業戦士としてご自分の居住地と会社の間を永年往復していたため、自分の足下の街のことなど考える時間がなかったのではないかと思います。私もそのような一人でした。

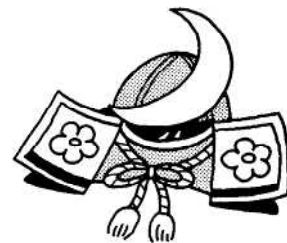
会社人間から離れたとき、一番先にやってみたかったことの一つが歴史の勉強でした。たまたま目にした区の広報紙で“わ”の会の存在を知り、応募して入会したのが講座の2年目の平成12年度からでした。その道の権威の方がお話し下さる内容は、やはり充実しており、ひと言も聞き漏らすまいと必死になり聞いたものでした。それ以来、ずっと“わ”の会に席を置かせていただいております。

平成14年度は分科会代表として参加し、平成15年度からは運営委員に引き込まれ、“わ”の会の運営に関するあらゆる事柄にあたってまいりました。この間、前代表の高橋氏の緻密な計画と強力なリーダーシップにより委員

会も順調に進み、また、個々の会員の方のさらに深く研究したいとお気持ちから発足した分科会も益々活発になり、大変良かったと思っております。私もそんななか、運営委員の末席を汚してまいりましたが、この度、平成17年度の代表を引き受ける羽目になってしまい、戸惑っております。

しかし、多くの方からご期待とご支援をいただいているこの“わ”の会をより良いものとするため、学習会ではどんなテーマ、講師をお望みか、またどんな分科会のニーズがあるのかなど、委員共々皆様のご要望をお聞きしながら、一生懸命にこの会の運営に当たってまいりたいと思っております。

どうぞ会員の皆様のご支援とご鞭撻をいただけますよう心よりお願い申し上げます。



# 退任の挨拶

## 代表を退任するにあたり

顧問 高橋 好一

新緑の5月。夢と希望に満ち溢れる季節です。私の最も好きな季節です。いくつになっても、5月になると何かしら期待に胸が一杯に膨らむのです。その5月になりました。そして4年間、務めさせて戴きました“わ”の会代表を退任致すことになりました。

1998年、区役所の公募に応じて「金沢の歴史を学ぶ」生涯学習講座立上げに関わり、以来運営委員になって、今年で8年目になります。立上げから3年間、1999～2001年は区役所のご指導・ご支援を得て学習基盤を形成し、2002年からは自立の道を歩み始めました。役所主導から自立へと、岐路を迎えた2001年度から代表を仰せつかりました。第3代代表です。

自立を機に、会員制を採用、定員数を増加、分科会制度創設、会報発行を通じて、より広く深い交流の場ができました。2004年度には創立5周年を機に、記念事業として記念誌「“わ”の会5年の歩み」が発刊(2005年11月)され、金沢事典とも言うべき「INDEX金沢」(2007年5月発行予定)の編集が進められています。また会員限定の会報に加え、情報の迅速性と一般市民への広報性を図るためホームページが2004年11月に開設されました。さらに区役所・生涯学習グループ・街の先生合同開催の「生涯学習フォーラム KANAZAWA」(2004、2005年各3月)に参加し、“わ”の会活動の広報に努めました。ざっと記しましても以上のようなイベントが記憶細胞に刻印されています。

基盤事業としての年7回の学習会。学習会の企画立案と実施運営への興味と関心こそが、そもそも生涯学習講座立上げに応募した動機であ

ります。時宜を得たテーマ、会員の関心を惹起するテーマを模索し、斯界の権威・専門家を探し当て、講師委嘱の交渉。学習会当日は講演の満足感、アンケートによる会員諸兄姉の反響と感激。そして次年度企画への抱負。このサイクルこそ、学習企画の醍醐味であります。会則第1条(目的)に、“「金沢の歴史」を学ぶことを軸として、豊かな生きがい作りを推進する。”と述べています。歴史の対象地域を「金沢」と限定しているのが特長です。あくまで軸足を金沢の地に置き、いろいろな視点から金沢の歴史を解読します。学習したいテーマは無限に湧出して参ります。今後もこの第1条にこだわって進んで欲しいと思っています。勿論、金沢に限定せず、より広く歴史を学ぶことも可能です。実際に足で、文書で、映画で歴史を学ぶグループが“わ”の会の中にもあります。それが分科会です。より広く・深く学び、交流を深めるために、分科会制度が設けられたのです。

これからの“わ”の会に期待することを申し述べさせて戴きます。それは、会員個人あるいはグループが、学習講座の講師を担当できるように、会員の歴史に関する専門性をより向上させることです。従来も分科会単位あるいは会員有志で学習会をご担当戴いた例があります。2003年には「伊能忠敬研究会」が「伊能忠敬、金沢を歩く」と題して講義し、オプションとして探訪案内を実施しました。2002、2003年には運営委員を含む有志が、2004年には「寺社を巡る会」が探訪案内を実施しました。今年度も有志による探訪案内を企画しております。今後とも探訪案内は分科会もしくは会員有志による対応

が定例化することになるでしょう。日頃の研鑽の成果を、全会員を対象に披露することは素晴らしいことです。さらに座学の場においても会員個人あるいはグループが講師となり、全会員を対象に、少なくとも年間2～3回の講義を定例化することを目指してはいかがでしょうか。研究・教育機関の先生方に講師をお願いし、体系化した内容あるいは最新研究成果をご講演戴くことは、勿論必要です。しかしながら粗削りで泥臭くともいい、会員自らが調査研究された内容の講演もあっていいと思いますし、いやむしろ、そういう講演こそ必要かと考えます。それには会員各位にそのような意識を持って戴く必要がありますが、運営委員会として、積極的に「会員による学習会講師」の促進を図る必要があります。財政支援を含め、多面的に「仕組み」を起案し、全会員への「仕掛け」を図ることです。現在、「INDEX 金沢」編集に当り、全会員参加を念頭に当面有志を募り、夫々にアイテムの分担・調査を行いつつあります。この作業を通じて会員の歴史専門性が向上することは確実でしょう。「INDEX 金沢」は私の申上げる「仕掛け」の1種かと考えます。さらに、より多面的に「仕組み」と「仕掛け」を案出されることです。どうか、さらなる歴史学習の発展のために、運営委員初

め会員全員で考えて戴きたいと思っています。

7年間に近い運営委員、その内4年間の代表を経験して多くのことを学ばせて戴きました。それはまさに“わ”が意味する、「和」であり、「輪」であり、「話」であり、「倭」に集約されるように感じられます。今後は、顧問という役目を戴いたにしろ一会員の立場と感覚で、初心に帰り地域の歴史を学んで参ります。

最後になりましたが、常にご支援下さる区役所、素晴らしいご講演を賜る講師諸先生方、そして歴代の運営委員諸兄姉、分科会幹部諸兄姉、“わ”の会全会員の方々の熱い激励に心から感謝申し上げ、代表退任のご挨拶とさせて戴きます。今後ともご指導・ご鞭撻賜りますよう、お願い申し上げます。ありがとうございました。



## 分科会の1年を振り返って

古文書を読む会

代表 岡田 満

昨年の4月、当分科会もスタートしてから丁度2年を経過していました。その頃、前の代表や講師をしていただいた方もやめられました。新代表を小生がおおせつかり、講師も会員の方がやって頂くことになりました。

薫風香る5月、“わ”の会総会の席上、新会員

の募集を致しました処、早速4名の応募があり、全員入会して頂くことにしました。一時はこのまま難破するのではないかと思われた古文書丸も、旧会員8名と新会員4名を合わせ12名での再スタートになりました。新入の方々は、古文書を読みたい気持ちは充分にあるが、基礎知

識はほとんど皆無ということでした。

そこで一番困ったことは2年間習った面々と基礎知識のない新入の方々をどうやって一緒に教えていくかであった。講師、会員の方々にいろいろ相談した結果、同じ教材を使用して全員で学習する。具体的には、以前の方法と同じで、開催日に次回用の教材を配布して予習してもらい、開催当日、会員一人一人に一部分ずつ順番に読んでもらい、皆で議論し、講師の説明が入る方法です。「ただ、新入の方々は当分の間は傍聴だけで読まなくても良いことにする。また、新入の方々のレベルを早く古い方々に近づけるためには、もう1日学習日を増やし、月2回とする。」の2点でした。

早速6月から従来の第3木曜日に加えて新たに第4木曜日を学習日とし、それ以来、1ヶ月に2回の学習を行ってきました。1年間を通じ学習した中でも特に印象に残ったのは「五人組掟書」でした(6月から今年の2月まで連続9回の長編)。内容は鎌倉郡峠村(現、金沢区朝比奈町)に対し、文化8年(1811)に当時の鎌倉郡役所が「五人組掟書」と表書きした79ヶ条にのぼる上意下達の雛形を名主佐左衛門に示達したものです。

「前件御箇条の趣、<sup>ちくいち</sup>逐一拝見奉り、名主宅において<sup>そろう</sup>惣百姓男女とも集め置き、一か条毎念を入れ読み聞かせ候の所、<sup>いっとう</sup>一統承知<sup>かしこ</sup>畏み奉り候。之に依り御請連印し差上げ奉り候<sup>ところ</sup>處。依て件の如し。」

また丁度この頃、朝比奈町内会から「朝比奈の歴史」が刊行され、上記「五人組掟書」を理解するには大変良い参考書で興味深く読みました。新入会員の方々は月2日の学習で、予習や復習に長時間費され、ご苦労も多かったことでしょう。自分なりに古文書を覚えるコツをつかむのも1年の経験を積まれたこれからだと思います。

前述のように、昨年5月、新会員が入り12

人でスタートしましたが、途中で2人増え、現在14人です。古文書に関心をもたれる方が増えて有難いことです。

最後は小生の下らぬ話になりますがしばらくお聞きください。30年近く金沢区寺前に住んでおります。称名寺の赤門のまえから寺前・八幡神社に通ずる赤門通り一帯が寺前です。近隣の金澤町、町屋、洲崎、平潟など古い町です。そのため道路は狭く、迷路あり、行き止まりありです。近道をして目的地に行こう、また近道をして我が家に帰ろうと思っても、道に迷ったりして困ったことがありました。それからは町内の地図を頼りに歩きまわり調べました。地形になれたのか、おおかたの判断がつくようになり道に迷うことがなくなりました。

古文書を読むのに小生なりのコツは漢字のくずし字体を知ることが必要、そのためにはまずひらがなが読めるようになれば同時に漢字のくずし字体を知ることになる。そして古文書には常に興味を持っていたい。人によっては日々の生活に、時間に余裕がある、あるいは足りないなどいろいろでしょうが、1日24時間の間にいろいろなことをやって行かなければならないので、古文書だけに時間をかけることができないという方が大半ではないかと思います。

興味を持っていれば金沢文庫などに行ったり、陳列してある古文書を読んで見たいくなる。小生も3年間習ってきたのでどの程度読めるかなと力だめしに覗いてみるが、部分的にしか読めない。ぶっつけ本番で、薄暗いところ、かすれた文字など読むのに条件も良くない。また訪問する機会には挑戦してみよう。ある程度読めるようになるのもそう遠い先の事ではなさそうです。



# 会員の寄稿

## 珍味

## 納富 優

佃煮を乗せた飯を肴に、お茶割りの焼酎を飲んで満足するようになっては、もう酒や肴の話をする資格はないのかもしれない。とはいえ、「さけのみ」の美学と縁遠い存在になった今でも、角に塩を1つまみ置いた枥酒を3口位で飲んで、街中散歩を続ける楽しみは続いている。

今回は「酒」ではなく「肴」の話を書いてみたい。まず、「グローバル・スタンダード」に敬意を表して「世界3大珍味」から始めよう。

### ・トリュフ

残念ながら、ソースの中に細かく刻まれて入ったものか、何とかのテリーヌの上にチョココンと載ったものしか食べたことがない。昔の人は「西洋松露」と言ったそうだが、日本古来の松露料理に出会ったこともない。トリュフは、女性に対する媚薬的效果があると聞くと、その物自体の生理効果か、高価な食事の経済的・心理的效果なのか分らない。

### ・フォアグラ

ソテー、テリーヌ、パテなどハンガリーで食べたが、印象に残っていない。最近、フォアグラの寿司なるものをテレビで見たが、大トロのアプリと似た味だろうと思うと、わざわざ食べたいとも思わない。私のような貧乏でケチな人間にとっては、「アンキモ」さえも高嶺の花である。

### ・キャビア

これは、アンカレッジやヨーロッパの空港で買ったり、ソ連出張の友人に頼んだりしてよく食べた。高級シャンパンに合うということで、試しても見た。確かに舌を洗うには発泡系の酒

がいいとは思いますが、私には「イクラの醤油漬」に、「岩手の地酒」が向いている。

つぎは、「日本3大珍味」だが、ここに述べる3品が正しいか自信がない。3大稲荷、3大刃傷、3大仇討・・・、3大には気を遣わされる。

### ・コノワタ

年に1・2回熱燗の肴にするのはいいと思う。竹の筒に入ったのでは、多すぎるし、総入歯にしてからは、自分で買って食べたことはない。最近、青森の食堂で「バクライ」(註1)という名だったか、ホヤの塩辛とコノワタを和えたのを肴に一杯飲んだ。秋田にもあるという。「クチコ」は、ビキニの下着を小さくしたような三角形の干物だが、これは今でも手に入りさえすれば、喜んで日本酒を買いに行くだらう。ひとあぶりした香気がたまらない。但し、珍味として、いや世界中の食物の中でグラム当り単価は最も高い筈だ。

### ・ウニ

現在、ウニは珍味とは言えない食品になってしまった。スーパーや回転寿司にも生ウニはあるし、小樽や函館でもウニ丼の店は多い。瓶詰め「雲丹」もピンからキリまであるが、当たり外れがあるようで、下関の最高級ブランドも安心できない。先月旅行した利尻・礼文で4回試したウニも、「感激！」からはほど遠かった。40年以上前、積丹の神威岬の磯で、焚き火で焼いた取れたてのウニの味を、ほろ苦く思い出す。変わらない旨さは「越前雲丹」。5mm角位に切ったのを舌の上に乗せ飲み込まないようにし

ながら、ぬる爛で猪口4・5杯、たまらない。

### ・カラスミ

40年程前は、洗濯石鹸のように固かったが、近頃は柔らか系が主流になって固いのは手に入りにくくなった。確かに、固くするには日数も手間もかかるし、大きさも重さも減ってしまう。台湾では、夕食前にカラスミを専門店で、紹興酒1本と肉まん2個をスーパー（超級市場）で買って、ビジネスホテルに帰って食べるのが定番の楽しみだった。酒1本にカラスミ片腹丸かじり、買い置きの缶ビールと肉まんの夕食、朝のお粥と昼の麺類、夜の会食さえなければ健康的な出張だった。

外国は別にして日本で1・2回だけ試した味は、鮎のセゴシ（宮崎）、海ブドウ（東京・沖縄）、馬のタテガミとクラシタ（熊本）、がん漬（佐賀）、ワラスボの干物（福岡）、カキの塩辛（広島）、松葉ガニ内子の塩辛（鳥取）、ノレソレ（高知）、鯨の内臓（下関）、フグの真子（卵巣）のヌカ漬（富山）（これは北陸に旅行した娘にリクエストして駅前の市場で買ってもらった）、イカの黒作り（富山）、イルカの煮物（沼津）、トンプリ（秋田）、鮎ウルカ（岐阜）、巻ブリ（金沢）、メファン（札幌）などなど。何が何でも、もう一度という味はなかった。

その他で気に入った「酒の肴」は、

### ・鮎鮓

以前は福井から帰りの乗り換え駅米原で買っていたが、1匹では高いし多すぎる。一時、アメリカ大使館前の「ザクロ」のつまみにあったが今はどうだろう。

### ・鯖のヘシコ（糠漬）

これは、良さそうな物を見かければ、必ず買う。但し、丸1匹をさばいてスライスするのは自分。生でよし、あぶってよし。安価なのも嬉しい。

### ・大徳寺納豆・浜納豆

5粒もあれば、1合飲める。

### ・平貝・海茸・鯨の軟骨の粕漬

前の2品は有明海、鯨は佐賀・長崎北部の名産で、粕がべっ甲色になるまで熟成してあるものが好ましい。

### ・太刀魚の一夜干し・味醂干し

福岡空港で初めて買って、これは旨いと思った。長さ80cm位で、骨を取ってある開きがあれば、言うことなし。

### ・鮭の燻製

柔らかいスモークサーモンではなく、堅く身のしまった皮付きの、塩の利いた、沢山食べると思えるような、シャケそのものとは異なった香気の強い、中骨がついたまま筒切りにした一片が手で持てる「あの燻製」。一体どこへ消えてしまったのだ！

### ・塩マス

片手で200～300円位の塩の吹き出るような塩マスも、近くのスーパーには置いていない。外国産の油の強いシャケに負けたのか、それとも“ほか弁屋”専用になったのだろうか？シャケのかまも当り外れが多くなった。

続ければキリがなさそうだが、40年前と比べると、冷蔵・包装・輸送の進歩と減塩の風潮で、肴や珍味の中味も大きく変わってきた。あと20年たったら、日本の伝統珍味はどんなになっているだろう？因みに、我が家の冷蔵庫にある「常備珍味」は、「ブルーチーズの角切オリーブ油漬ガーリック風味」の瓶詰と、「酢豆腐」（註2）ならぬ「発酵豆腐」（豆腐餅など）の瓶詰。日持ちはいいし、高塩分のため少量ですむし、冷蔵庫の場所をとらない。今の私はこれに限る。

（註1）「バクライ」（莫久来）

某社のホームページを引用させてもらう。“保存は、冷凍庫です。カチカチに凍っているのを

取り出し、まだ完全に溶けてないシャーベット状のを口にふくむのがポイントです。この「莫久来」は、日本酒だけに合う珍味。しかも常温のお酒。お酒をひと口飲み、「莫久来」をひと箸。ゆっくり溶かして香りと味を楽しみ、そして酒……。こうして飲みだすと、海の中を漂っているような気分になり、時間が止まってしまう……。 ”なかなかの名文である。別の社の価格表では、100g 当たり 1000 円程度とのこと。

(註2) 落語「酢豆腐」

“集会所に集まった江戸の若者達、酒を飲むにも肴に一苦労。金は無し。与太郎さんが昨日の豆腐も腐らせてしまっている。そこへ、遊び

人食通を気取った若旦那がくわえ楊枝で現れる。

「若旦那、これはどんな風に食べたらいいいんで？」

「ほう、これはよく手に入れなすった！私も久しく食していない。」

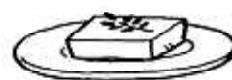
「そいじゃあ、食べ方を教えて下せえ。」

カビまで生えた腐れ豆腐を口にした若旦那、

「これや、オツでげすな。珍味ですな。口福ですな。」

「そいつあ、よかった。遠慮なくもっとどうぞ。」

「いやあー、“酢豆腐”は一口に限る。」



## 「峰の薬師へのみち」を歩く

～分科会「ふれあいの道歩こう会」に参加して～ 太田 八百丸

<津久井湖城山公園水の苑地・峰の薬師の歴史にふれながら、東京都に至る>

(JR 橋本駅 城山高校前バス停

津久井湖城山公園水の苑地

三島神社 峰の薬師 三沢峠

梅の木平 京王高尾山口駅)

平成 17 年 2 月 18 日 (金) 曇り

参加人員 24 名 (男子 12 名・女子 12 名)

このところ天候不順で一日置きに雨天。今日は幸い「夕方までは曇りで、雨は夜遅くから」の予報どおりだった。日中は、うす曇りで肌寒い一日であったが、歩くと暑くなり着衣を 1 枚脱いだ。

JR 橋本駅北口バスターミナル、1 番線バス停に AM 8 時 40 分全員集合。8 時 48 分発三ヶ木行きバスに乗車。城山高校前バ

ス停に 9 時 09 分に到着 (前回終了地点)。

バス停反対側国道を 50m 程津久井湖方面へ進み、右折後間もなく津久井湖湖岸に面した津久井湖城山公園水の苑地に 9 時 12 分到着。津久井湖を望みながら、本日当番の伊澤氏の指示で準備体操をした。伊澤氏からの挨拶と本日の行程などの説明後、トイレなどを済ませて 9 時 30 分に出発。

しばらく県道を進むと三本松バス停付近で「里美八犬伝」伝説に関連する地名のいわれが表示されていた。<城山町中沢のこあざめい小字名 明治初期、地元の安西要五郎が里美八犬伝の玉の名前にちなんで、「仁・義・礼・智・孝・忠・信」の小字名を付けたと伝えられ、全国でも珍しい小字名とされている。(環境庁・神奈川県)>

県道を大きく曲がりながら進み、中沢バ



ス停付近を右折すると**三嶋神社**である。旧い佇まいの石の鳥居脇に、梵字の下に二十三夜の文字を刻んだ石碑がある。「神仏合祀の名残だな」と思いながら傷んだ敷石の境内を進む。正面の社殿は古く荒れていた。御祭神は**大山神・事代主神**。本日の旅の無事を祈る。社の傍には、天皇陛下（昭和天皇）在位 60 年記念植樹あった。樹齢 400 年のスダジイの大木が大きく枝を広げるなど古木が多数あり、歴史の重みを感じさせられた。

神社より再び県道に戻りゆるい坂道をしばらく行くと、曇り空の左手遠方に雪化粧をした丹沢連山がガス霞に浮かんで見えて来る。さらに進むと右手に、< **峰薬師東参道口** > < **蓮華院** > の看板があり、その傍らには < **峰の薬師より城山湖へ 3.5Km・70分** > の表示板も有る。

上中沢バス停から県道と分れて坂道を登る。高台になるにつけ、視野が広がり、雪化粧の丹沢連山までの景観が一層際立ち、思わずカメラのシャッターを切る。なお坂道を進むと、細い右折登山道入口で < **普門寺・都井沢** > < **中沢・山王道** > の分岐表示に出会う。これを見ながらさらに進む。次の分岐点で、< **左折は蓮華院へ** > の案内に従って、やや急な曲りくねった蛇行の坂道を進む。坂の途中で、暑いので着衣を 1 枚脱ぐ。樹齢を可なり経た杉の大木やドングリ等の樹林が続く道をしばらく登ると、車の進入を防ぐための鉄の門が道を塞いでいる。そこから左方、眼下を見ると、津久井湖に架かる赤い色が映える**三井大橋**（**かながわの橋 100 選**）が湖のシンボリック的存在を誇示して、津久井湖の状景を一層描き立てている。

そこから間もなく、**峰の薬師寺**（**大覚山・東慶寺**）である。明応元年(1492)、武

蔵・相模の 4 薬師の一つとして無病息災・家内安全など現世利益を願い、創建されたものである。他に、**新井薬師・高尾山薬王院・大山日向薬師**が近くにある。また、富田常雄作のフィクションの舞台で有名な、**姿三四郎の決闘の場所**でもあり、< **姿三四郎決闘の場・富田常雄作** > の石碑が建立されている。境内から眼下に見下ろす津久井湖の眺めは見事である。約 30 分ほど休憩をとる。

10 時 22 分、境内には他に憲政の神といわれた、**尾崎行雄**（雅号：**鸛堂**）翁の記念植樹と石碑があり、「この山麓に生れた」と記されている。屋敷跡は現在記念館である。

薬師堂の脇から、祈願坂を登ると奥の院に出る。ベンチなどが置いてある。奥の院の横を抜けると、先ほど同様、オートバイの侵入を防ぐための、鉄の北門が道を塞いでいる。そこを通り過ぎると、< **三沢峠 700 m** > の表示がある。雑木林が続き、比較的道幅が広く、平坦な粘土質の尾根道である。進むと電波塔が見えてきた。一つ過ぎると、また一つと、全部で四基ある。右下方には**城山湖**が、木々の合間から、見え隠れしている。

道が分岐しており、< **右方の道が城山湖 1.5km、左方の道が三沢峠 0.2km・梅ノ木平 3.3km** > の表示がある。間もなく、三沢峠に到着した。案内板・指導標・石柱など関東ふれあいの道の標識やベンチも置いて有る。

標識に、< **南高尾風景林 東京・神奈川県森林管理署** > と書かれており、国有林である。国民の保健及び保養に供する森として、檜などの美林地区である、傍らに、< **いのししの鈴**（**出沒**） > と書かれている。この峠が、神奈川県・東京都（八王子市）の県

境になっている。神奈川県寄り、南に面していたせいか、そう寒さを感じなかったが、東京都側に入った途端、北風が当たり寒さを感じる。何人かは、脱いだ衣服を着直している。林道は下り坂である。沢の源流を巻くように細い道幅で大きく曲がりながら下って行く。綺麗に整理されている檜林の木々の合間より沢の残雪が目につく。

下るにしたがい、昨夜からの降雪の影響であろうか、ぬかるんでいる所が多く道を選びながら進む。しばらく進むと、林の真っ只中に洒落た吾妻家が有る。道幅も若干広くなってきた。その先に、林業改良普及会の「湖の道・高尾グリーンセンター」の保養施設が、良い環境の中に有る。林業は大赤字であるが、「これも税金で？」

山間の溪流も穏かに、川幅も広く、清流も増水している。沢川を右に左に見ながら整備された檜・杉などの森林の道をしばらく進むと、林道の出口である。そこは**梅ノ木平**である。

出口から程なくのところにある老人ホーム「福寿園」の構内でトイレ休憩をする。交通の便が悪い山間の静かな所で、「面会に訪れる人も、少ないだろうな・・・。余計なことかな？」時刻はPM12時であるが、昼食場所はまだ先なので出発する。

しばらく進むと、豪華な粋な佇まいの料亭建物がある、暖簾には、<味よろし 料亭>と描かれている。道を挟んで、別棟建物の黒看板には白字で、<うかい竹亭・山里の懐石料理>と書かれている。料亭の周囲は畑が広がり、大きな石灯籠が目につく。その先を流れる案内川に沿って進み国道20号線（甲州街道）に出ると、**梅ノ木平バス停**があった。

「関東ふれあいの道」の規定では、歩行はこのバス停まで、後はバスに乗車して

高尾山口駅で終了し、歩行距離は7.1kmであるが、本日は高尾山口駅前で新年会を兼ねての昼食のため、ここから国道の歩道を自動車の排気を浴びながら高尾山口駅方面にさらに2km弱余計に歩く。沿道には所々旧街道沿いの面影を残す建物が目につく。また案内川に架かる**込縄橋**から**案内橋**にかけての広い範囲で、圏央道の大規模なトンネル工事と高架橋の橋桁工事が行われている。現在、高尾山麓の自然環境破壊で論議沸騰箇所と思われる。しばらく、淡々と進み、**高尾下駐在所前**を通過したところで道路脇に、<日本橋まで53km>の表示がある。既に高尾の市街地に入っている。前方に社殿が見え、近づくと**高尾山自動車祈禱殿**だった。そこから程なく、ケーブルカー直営店・高尾山麓<香住>の昼食場所に到着した。

和やかな雰囲気の中での、新年会を兼ねた昼食会だった。途中、次回幹事の小俣氏から15号コースの案内と、宮原代表から6月以降の東京都コース当番表の配布と説明、また来年1月～2月は雪の心配が少ない千葉県コースを歩くなどの提案があった。終了時間PM12時33分。

食事後、京王線で帰路に付いた。



## 鎌倉俳句寺社めぐり〔 〕(その3)

～分科会「寺社を巡る会」に参加して～

北野 清市

### 第9回 テーマ「覚園寺参詣と探梅」

H17年2月3日。快晴。10時鎌倉駅東口集合。徒歩で覚園寺(昼食)・荏柄天神・来迎寺を廻る。本日は節分。途中の鶴岡八幡宮や鎌倉宮では、午後の豆撒きの準備におおわらわであった。

《北野 清市詠》

節分の山門くぐり覚園寺(覚園寺5句)

念仏の渦巻くお堂春意かも

梅の四貴「老瘦<sup>ろうそう</sup>蓄<sup>ちく</sup>稀<sup>き</sup>」谷戸深し

福寿草仲よく咲けり寺の奥

寺領には百八やぐら寒明けり

拝殿の梅鉢紋や崖椿(荏柄天神3句)

梅の四貴「嫩肥<sup>こなひ</sup>開<sup>ひら</sup>繁<sup>ひら</sup>」天満宮

清水崑の筆塚めぐる梅日和

手を頬に如意輪観音春の燭(来迎寺2句)

手をあげし阿弥陀如来や寒の明け

### 第10回 テーマ「小町大路を歩く」

H17年3月3日。曇。10時鎌倉駅東口に集合。補陀洛寺・実相寺・五所神社・来迎寺・元八幡・辻薬師堂・八雲神社・教恩寺の順に巡る。最高気温8度と寒の戻りを思わせる一日であった。しかし前回は節分、今回は桃の節句と連続24節気と重なった。一行のなかには6人の女性が参加、祝意を表した。

《北野 清市詠》

桃の日や大町小町寺社めぐり

ももは八重桜は誓補陀洛寺(補陀洛寺2句)

頼朝の自作の像や春ともし

本堂に一景添へし薄紅梅(実相寺)

春興や少年うたふ「天王謡」(五所神社)

ミモザ咲く一遍のかけ来迎寺

春禽や源氏守りし元八幡

春浅し平安佛の薬師堂

やくよけの八雲神社や木の芽どき

山門の十六羅漢や春の鶯(教恩寺2句)

しづもりしあかずの寺の余寒かな

### 第11回 テーマ「深沢の里を巡る」

H17年4月7日。曇り後晴れ。10時鎌倉駅東口集合。鎌倉山の碑・播亭・棟方板画美術館・子守神社・八雲神社・円久寺の順に廻る。バスで鎌倉山まで直行、満開の桜の山里を吟行した。

《北野 清市詠》

養花天寺社めぐる会鎌倉へ

山ざくらゆくバスの窓奪ひけり

木の芽晴鎌倉山に武者の声(鎌倉山の碑)

播亭や句読点打つ飛花落花

花の山棟方志功美術館

揚雲雀子守神社をみはるかす

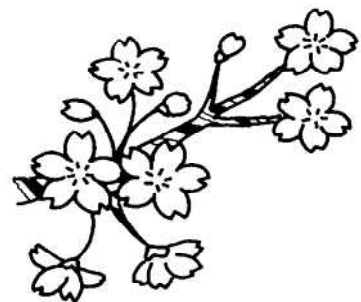
喘ぎつつ登る社や風光る(八雲神社2句)

花盛り歌舞伎顔して猫通る

正面に釈迦の御座せる春の寺(円久寺)

鎌倉山歩いて三里花に酔ふ

鎌倉俳句寺社めぐり〔 〕 完



# 分科会からのお知らせ

2005年9月までの予定

	寺社を巡る会	古文書を読む会
6月	6月2日(木) 集合：10時、光明寺バス停 テーマ：旧山の内 本郷付近 行動：光明寺～長慶寺～いたち川・川辺の道	6月16日(木) 中世古文書から見た横浜中心部の支配の歴史 6月23日(木) 泥亀新田開発
7月	7月7日(木) 集合：10時、北鎌倉駅表口 テーマ：山崎付近 行動：光照寺～昌清院～北野神社	7月21日(木) 中世古文書から見た横浜中心部の支配の歴史 7月28日(木) 泥亀新田開発
8月	8月4日(木) 集合：10時、鎌倉駅西口 テーマ：扇ガ谷周辺 行動：英勝寺～薬王寺、午後：座学・三浦地区	8月18日(木) 幕末異国船日本海域出没と海防 8月25日(木) 泥亀新田開発
9月	9月1日(木) 集合：10時、大船駅東口 テーマ：深沢方面 行動：等覚寺～大慶寺～東光寺～青蓮寺	9月22日(木) 幕末異国船日本海域出没と海防 9月29日(木) 泥亀新田開発
分科会代表の一言	桜花に想う!! 一斉に開花する、その艶やかさ、そして一度に散る潔さ、私は好きだ。 「散る桜、残る桜も、散る桜」 6月からの新年度計画は、三浦半島に足を伸ばします。覗きにきて下さい。	昨年5月、新会員が入り12人でスタートしましたが、途中で2名増え現在14人です。古文書に関心をもたれる方が増えて有難いことです。勉強会の会場は原則として金沢区公会堂会議室です。

	ふれあいの道歩こう会	懐かしの映画を観る会
6月	6月17日(金) 湖のみち(東京都 コース) 雨天の場合は翌月に順延(以下共通)	6月13日(月) 風と共に去りぬ〔米〕 6月27日(月) 西部戦線異常なし〔米〕
7月	7月15日(金) 鳥のみち(東京都 コース) 	7月11日(月) 雨月物語〔大映〕 7月25日(月) アラビアのロレンス〔英〕
8月	8月19日(金) 富士見のみち(東京都 コース) 	8月8日(月) 鉄道員〔伊〕 8月22日(月) 夫婦善哉〔東宝〕
9月	9月16日(金) 山草のみち(東京都 コース) 	9月12日(月) 天井桟敷の人々〔仏〕 9月26日(月) 道〔伊〕
分科会代表の一言	自然とのふれあい：これは最高の贅沢。あなたのいまだ使っていない才能を引き出してみませんか。参加者募集中。	上映機材も整い、扱いにもなれ、映画鑑賞は佳境に入っています

<b>編集後記</b> 代表交代のご挨拶文をいただきました。前代表の高橋さん、数々の橋頭堡を築かれまして大変ご苦労さまでした。新代表の岡本さん、健康に気を付けられ会の運営に頑張ってください。 会員の皆様方もお元気で、今年もいろいろな投稿をおねがいします。(満)	発行日	平成17(2005)年5月14日
	発行周期	4回/年(2、5、8、11月)
	発行者	金沢区生涯学習“わ”の会
	編集責任者	小岩克介 〒236-0005 横浜市金沢区並木 3-3-2-103 Tel/Fax 045-783-0474